

箕面市の概要

箕面市の地勢

箕面市は、大阪府の北西部に位置し、東は茨木市、西は池田市及び川西市、南は吹田市及び豊中市、北は豊能町に隣接しており、昭和 31 年 12 月 1 日に市制を施行し、大阪府下 24 番目の市として誕生しました。

現在、人口は約 12 万 9 千人、市域は、東西 7.1 k m、南北 11.7 k m、面積 47.84 k m²で、北部は、市域の約 3 分の 2 を占める北摂山系箕面連山からなり、明治の森箕面国定公園を擁し、自然に恵まれた住宅都市として発展しています。

また、名滝「みのおの滝」とともに東海自然歩道の起点として知られ、大都市の近郊にありながら豊かな自然が残り、桜や紅葉の季節には近郊から大勢の観光客が訪れます。

南部には、一大流通センターである大阪船場繊維卸商団地があり、中部には、平成 15 年に箕面新都心「かやの中央」が、翌年には東部に、国際文化公園都市「彩都」がまちびらきしました。

また、平成 19 年 5 月には、北部の山を貫通し、大阪府下で最長となる箕面グリーンロードトンネル(坑道距離 5.6 km)が開通するとともに同年 10 月には、同トンネルを抜けた北部に水と緑の健康都市「箕面^{しんまち}森町」がまちびらきするなど、21 世紀にふさわしい、環境を生かした新しい街へと発展しています。

箕面市の変遷

本市域の母体は、明治 22 年 4 月 1 日の町村制施行によりつくられた箕面村、萱野村、止々呂美村の 3 村で、昭和 23 年 1 月 1 日に町制施行により箕面村が箕面町となり、同年 8 月 1 日に萱野村、止々呂美村と合併、昭和 31 年 12 月 1 日には三島郡豊川村と合併して市制を施行しました。その後、昭和 32 年 4 月 1 日に茨木市の川合地区を編入し現在のかたちになりました。